

受講番号 18021 学校名 高知丸の内高等学校 氏名 片岡 智香

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年2H 生徒数 18名  
 科目名 ライティング 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 Powwow ENGLISH WRITING(文英堂)

クラスの様子・特徴

音楽を専門とするクラスである。希望進路は多種多様で、生徒間の英語力の差が非常に大きい。基礎から理解できていないため英語が嫌いな生徒が多く、英語の学習に対する意欲は低い。落ち着きがない面はあるが、明るいクラスで活発に発言できる。

問題の確定

ほとんどの生徒が英語が苦手で、身近なことを易しい英語で表現することすら難しいと感じ、英文が書けないと決めつけている。

予備調査

A 授業の観察

英語の自己紹介や音読の声が大きく、英語を話すことを恥ずかしがる雰囲気は全くない。活発な生徒が多く、じっと静かに勉強するのが苦手な生徒が多い。文型を体を使って教えるなど、変化に富んだ活動的な手法に対して反応がよい。

B 生徒による授業評価

授業が速くて、写していると言明が聞けない生徒と、もっと先々進めてほしい生徒がいる。丁寧な説明を望み、評価している生徒もいるが、ただノートを写しているだけの生徒は理解できないままになっている。英作文は難しいが、楽しく学ぶことを希望している。

C 学力データ

平成17年度学習支援テスト(3年生用)クラス平均24.5点

リサーチ・クエスチョン

リスニング 音読筆写 スピーキングを反復することで、英語の語彙や語順の定着を図り、教師や辞書の助けを借りながらも、コミュニケーションに必要な語順と内容を備えた5文の英文を書ける力を身に付けさせるには、どのような指導をすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

文型や文法ポイントのある基本的な重要例文のリスニングや音読筆写を反復することで、語彙や英文の語順が定着するだろう。

実践1

各課の重要構文や文法ポイントになっている基本例文2文を説明した後、音読筆写をほぼ毎時間行った。緊張感を持たせるため各文1分間とし、必ず音読しながら書くことを徹底し、終了後は、暗記できているか復唱させた。音読筆写の練習用紙は冊子にして毎回集めてチェックし、ポイントカードにスタンプを押すことで、努力が励みになるように工夫した。一方、例文の穴抜きリスニングは難しく、音読筆写に集中して実施した。

検証1

リスニングには一部の生徒しか関心を示さず、音読筆写への生徒の集中力が最も優れていた。8割以上の生徒が十分な声で音読しながら熱心に取り組み、書けた数を競うなど、大変意欲的な態度がみられるようになった。音読筆写の後、英文を復唱させると、約7割の生徒が英文の暗唱が以前よりも容易にできるようになり、アンケートでは約5割の生徒が英作文に役立ったと答えた。

仮説2

教科書の中から抜き出して指定した重要語句や、各課の重要構文を使ってペアで対話させることによって、語彙や英文の語順が定着するだろう。

実践2

重要語句をワークシートを使って復習し、ビンゴゲームで楽しく覚えられるようにした。次に、それらの重要語句を使った英作文のトレーニングシートを解かせて、使い方や文の組み立て方を練習させ、応用文が作れるようにした。また、各課の重要構文を使った2文の英文日記を使ってペアで対話練習させ、その英文を週1回のALTとの昼食会で実際に使ってみよう奨励した。

検証2

ビンゴには9割以上の生徒が関心を持ち、重要語句を積極的に学習でき効果があった。英作文のトレーニングシートには7割以上の生徒が答えを待たずに応用英文作りに取り組めた。ただし、2文の日記を使ったペアワークについては、習熟させるだけの十分な練習ができなかった。語順の定着という観点から見ると、定期テストの並び替え問題が5月に比べて11月には9.9点上昇した(平均点は12.6点下降)。

仮説3

自由英作文の練習も平行して行い、自分の書きたいことを書かせることによって、英語の語句を組み合わせることが容易になるだろう。

実践3

冊子にした2文の英文日記をつけさせることで、日常的に自由に英文を作る環境作りをした。生徒自身の書きたいものを題材に作文させることで、書くことへの抵抗を少なくするとともに、各課で学習した構文をできるだけ使うことで基本例文に習熟できるようにした。英文を書くことにある程度慣れてからは、ワークシートを使って5文の自由英作文に挑戦させた。

検証3

2文の英文日記を毎回添削したことで、8割の生徒が継続して英文作りに取り組み、5文の自由英作文へのよい手立てとなった。5文の英作文ができた生徒は9月の13%から11月には83%に上昇し、約8割の生徒が間違いを気にしすぎずに英文を作ることができるようになった。英文を書くことに対して、大半が「難しい」などの否定的な意見だったが、「考えて書くのは楽しい」などの肯定的な意見が半数みられるようになった。

研究の成果

4月の学習調査と比較して、生徒の英語を学ぶ意欲に大きな変化があり、英作文の学習に肯定的な意見を持つ生徒が増えた。生徒の授業中の学習への取り組みを見直すために、ノート方式から全てワークシートを使った学習形態に転換し、生徒自身の毎時間の活動が増えた。同時に、教員のワークシートのチェックが小まめにでき、生徒の到達度の把握が容易になった。また、添削などのワークシートのやり取りを通じて、生徒とのコミュニケーションが増えることで授業自体も活性化した。

今後の授業改善の課題

英文を書くことに関しては抵抗が少なくなったと言えるものの、英文の質については十分に高められなかった。教科書に加え、重要な語彙や基本例文を徹底的に反復学習させることで、英作文を書くための土台作りをする必要がある。英作文は最も難しい分野であり、計画が盛りだくさんになりすぎない注意も必要だが、基礎力が低い生徒には理解と定着に相当な時間がかかるので、長期的な視野に立って継続指導していくことが重要である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-873-4291

電子メール

chika\_kataoka@kt4.kochinet.ed.jp